

機能性表示食品制度

日本獣医生命科学大学 教授 阿久澤 良造

機能性表示食品制度は、食品表示法（平成 25 年 6 月公布）に基づく食品表示基準のもとで食品の健康効果を示す新たな制度である。

今まで、機能性表示ができる食品は「特定保健用食品」と「栄養機能食品」があったが、そこに、新たな制度として「機能性表示食品制度」（平成 27 年 4 月施行）が加わった。

機能性表示食品制度の起点は、規制改革会議において「特定保健用食品」は許可手続きに時間と費用がかかり、中小企業にとってはハードルが高く、また、「栄養機能食品」については対象成分が限定されていることなどが指摘されたことにある。そこで、特定保健用食品、栄養機能食品以外で保健機能を有する成分を含む食品に関し、機能性の表示を容認する新たな方策について検討することになった。それを受け、「食品の新たな機能性表示制度に関する検討会」により、新制度の骨子がまとめられた。

制度の基本的な考え方は、安全性の確保、機能性表示に必要な科学的根拠の設定、適正な表示による消費者への情報提供を柱として、消費者の誤認を招かない自主的・合理的な商品選択に資する表示制度とされた。

機能性表示食品制度の特徴は、疾病に罹患していない者を対象にした食品であり、生鮮食品を含めすべての食品（一部除く）が対象となる。対象食品は、その安全性および機能性に関する情報をはじめ、製造および品質管理情報、健康被害の情報収集体制などについて、商品の販売前に届けられ、消費者庁のウェブサイトで公開されるものである。

新制度については、届け出制に起因する安全性の担保などについて、さらなる検討の必要性の指摘もある。届け出のあった商品は約 300（7 月末）と言われるが、公開商品の多くが特定保健用食品と同じ成分を含み同様の機能をうたっているなど、特定保健用食品と機能性表示食品の違いが分かりにくいとの指摘もある。

今後、誤認のない適切な商品選択ができるようにするためには、現状における課題を把握するとともに、健康に寄与する成分を含む旨を表示する食品すべてについて、まずは、食品のなかでの位置付けを理解し、その摂り方、食のあり方を考えることが重要である。

講師プロフィール

阿久澤 良造 (あくざわ りょうぞう)



博士 (農学)

日本獣医生命科学大学 応用生命科学部長/教授

学歴・職歴

1974年 日本獣医畜産大学畜産食品工学科卒業

(現日本獣医生命科学大学応用生命科学部食品学科)

1974年 小岩井農牧(株)入社

・休職しカルフォルニア大学デイビス校食品科学部修士課程に留学

・小岩井乳業(株)に移籍

1981年 日本獣医畜産大学助手

1992年 東京農工大学大学院連合で農学博士取得

1996年 コーク大学(アイルランド共和国)客員研究員 「チーズ熟成メカニズムの解明」研究

1999年 日本獣医畜産大学教授(大学院獣医研究科生命科学研究科兼任)(現職)

2003年 学校法人日本医科大学評議員(現職)

2006年 日本獣医生命科学大学応用科学部長(現職)

研究分野: 乳科学

主な著書: 「乳肉卵の機能と利用」「新編畜産ハンドブック」「現代チーズ科学」「Bioactive components in milk and dairy products」など

受賞: 日本酪農科学会賞(2000年)

現在の主な学会・社会活動:

日本畜産学会理事、日本栄養・食糧学会参与、日本酪農科学会評議員、

農林水産省農林物資規格調査会会長、内閣府消費者委員会委員、一般社団法人日本乳業協会理事、公益財団法人日本乳業技術協会理事など